

## 教育・研究を円滑にするしくみ 世界に先駆けた独自の環境・組織・運営

### 異分野クロスセッション

2009年度より大学院生を対象に開設された本講義は、これまで行われて来た「融合領域研究合同講義」の経験をもとに、異分野に積極的にクロスセッションする有効性を活用した点に大きな特徴がある。この講義では、学生は通常であれば受講する機会のない異分野の、多様な専門分野と研究者群像に触れることができる。

異分野クロスセッションの目的は、横断的、横串的視野及び学際的視点を醸成することであり、講義ごとに受講生は自分の専門とかわりながらその講義にいかにかコミットしたかが問われる。研究科を越えた全学的な講義は大学院改革の一環として、新しいカリキュラム改革の視点を提起するもので注目を集めている。

#### 講義の一例

担当者名	講義題目(予定も含む)	講義概要
理学研究科 小谷 元子教授	離散幾何解析学入門	我々の観測する巨視的現象は、微視的な構造から決まっている。微視的な幾何構造の持つ対称性や周期性が、巨視レベルでの現象をどのように制御するかを離散幾何解析学の立場で理解する。
教育学研究科 水原 克敏教授	現代日本カリキュラムの構造と特質	「ゆとり教育」と学力低下問題など、学校教育のカリキュラムの在り方についてかなり厳しい論議がなされているが、学校のカリキュラムはどのような原則で構成されているのか、その構造と特質を明らかにする。
加齢医学研究所 川島 隆太教授	最先端脳科学と新産業の創生	脳科学研究の技術と成果を社会へ還元する産学連携研究の取り組みにつき紹介し、大学の(科学)技術と社会が関わる意義、またその際に生じるさまざまな問題点につき、社会倫理的側面を含めて考察を行う。

### 東北大学インテグレーションラボラトリー 竣工

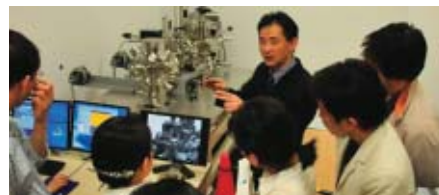
材料科学分野を中心とした融合研究の飛躍的發展に資するため、金属材料研究所及び原子分子材料科学高等研究機構(WPI-AIMR)の合同研究棟として、2009年3月に東北大学インテグレーションラボラトリーが竣工した。新棟竣工を記念し、2009年5月22日に文部科学省、日本学術振興会ほか国内外のWPI関連機関から参加者多数臨席のもとオープンハウスセレモニーを開催した。

式典に引き続き、井上総長らによる看板除幕式の後、

ラボラトリー見学ツアーを行い、参加者にWPI-AIMRにおける研究概要の理解を深めることができた。



建物外観



ラボラトリー見学ツアー

### グローバルCOEプログラム

「グローバルCOEプログラム」は、文部科学省が世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援する事業である。採択に当たっては、世界最高水準の優れた研究基盤や特色ある学問分野の研究基盤を前提に、人

材育成の機能を持つ教育研究拠点としての発展性などが審査される。

本学においては2007年度、2008年度あわせて8分野12件が採択されている。

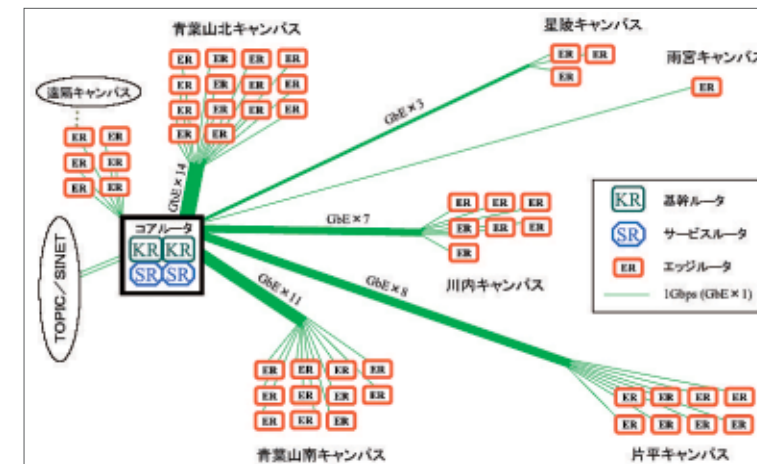
<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/researcher/coe/>

### 第四世代キャンパスネットワーク“StarTAINS”

StarTains のロゴマーク



東北大学総合情報ネットワークシステム“TAINS”の第四世代“StarTAINS”(スター・テインズ)が誕生した。これは青葉山北キャンパスのサイバーサイエンスセンター内に置かれるコアルータを中心とした“STAR”状のシンプルなネットワーク構成になっている。“StarTAINS”は井上プランが表明する世界リーディング・ユニバーシティにふさわしい力強い次世代の情報基盤として、文字通り“スター”の役割を果たすことが今後期待されている。



### サイバーサイエンスセンターが「共同利用・共同研究拠点」として認定

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」として本学のサイバーサイエンスセンターが文部科学省より認可された。これは北海道大学情報基盤センター、東京大学情報基盤センター(中核機関)、東京工業大学学術国際情報センター、名古屋大学情報基盤センター、京都大学学術情報メディアセンター、大阪大学サイバーメディアセンター、九州大学情報基盤研究開発センターと共に構成され、認定期間は2010年4月1日～2016年3月31日の6年間である。

本ネットワーク型拠点は、超大規模計算機と大容量

メモリ及びネットワークなどの情報基盤を用いて、地球環境・エネルギー・物質材料・ゲノム情報・学術情報・プログラム解析、その他情報処理一般の分野において、これまで解決や解明が極めて困難とされて来た研究を、学際的な共同利用・共同研究を実施することにより、我が国の学術・研究基盤の更なる高度化と恒常的な発展に資することを目的としている。この研究成果は、グランドチャレンジ的研究成果全体の中で大きな比重を占め、海外からも常に注目されることが期待されている。

### 総合技術部

本学における教室系技術職員は2009年4月1日現在、427名に上り、幅広い分野で教育研究の支援等に従事してきた。とりわけ理工系の研究科・研究所等には多数の技術職員が配属され、高度かつ専門的な技術を継承し、本学独自の特色ある研究の進展に大きく寄与してきた。

この教室系技術職員の更なる能力等の向上を図るとともに、優秀な人材の確保や適正な人事配置等を実現

することにより、本学における教育研究支援体制の一層の充実に資するため、2009年4月に「総合技術部」を設置した。これにより、原則として教室系技術職員は総合技術部に所属することとなり、部局の枠を超え全学的な見地から様々な施策を検討・実施することが可能となった。

今後、総合技術部において、能力の更なる向上を図るための研修や、教室系技術職員にふさわしい人事マネジメントの在り方などが検討・実施される。